

ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいこくじん 日本人と外国人が、なかよ 仲良く助け合っ
たの せいかつ 楽しく生活していくことを願って、活動
をつづ 続けています。

くろするろ〜ど

2018/1月号

かいほうし
会報誌

〜サロン月間カレンダー1月〜

あけましておめでとう!〜私のお正月〜

■サロンでお茶会

薫 瑞玲さん(中国)のおはなし

- 1月12日(金) 午前10時30分〜12時
絵手紙教室 (費用100〜200円)
- 1月19日(金) 午前10時30分〜12時
ダンス教室
- 1月26日(金) 午前10時30分〜12時
生け花教室 (花代500円) 要予約

薫瑞玲さん(中国)の息子さんが、友人と初めて日本の初詣に行きました。場所は日暮里近くの神社ですが、名前はちょっと分かりません。

「大学に受かるようにと祈りました!」とのこと。神社にお参りするときも、長い列ができていて驚いたそうですが、結果は分かりません(本人のみ)。そして、露店も沢山出ているので友人と店を見ながらとても楽しい経験をしたそうです。

(聞き手: ボランティアの高橋 栄 さん)

- ★対象はサロン学習者またはボランティアの方。
- ★申込みはサロン事務局まで。

■サロン講演会

講演内容: 「対話型活動のすすめ」
 講師: 岩田一成先生(聖心女子大学准教授)
 日時: 1月13日(土) 午後2時〜4時
 場所: サロン第2会議室(日本語学習の部屋)



温 明儀さん(台湾)のおはなし

『にほんごこれだけ』の執筆者のお一人である岩田先生のお話とワークショップをとおして、その活用法や留意点を解説していただきます。
申し込みは事務局まで。皆様奮ってご参加下さい。

温明儀さん(台湾)が日本のお正月で一番驚いた習慣は、年賀状だそうです。

台湾でも新年のカードをお友達や親せきに送る習慣がありますが、日本では年賀はがきが一斉に売り出され、皆が年賀状作りにそれぞれ工夫をし、元旦に届くように書いたり・・・全国的に盛り上がり、まるでお祭りのようです。

温さんもこの雰囲気の影響され、今では日本式の年賀状をサロンの先生やお友達に送るようになったそうです。(聞き手: ボランティアの大島洋子さん)

<研修部会>

1月13日(土)に岩田一成先生による講演会が開催されますので月例の勉強会はお休みいたします。



しょうがつ
「スリランカのお正月」

ヌシャーニ ディ シルワー (スリランカ)

スリランカのお正月は、毎年4月13日か14日に祝います。お正月の名称は「シンハラ・ヒンズーお正月」です。スリランカのお正月は、人口の7割以上を占めるシンハラ民族の仏教徒と2割ぐらいのタミール民族のヒンズー教徒が中心になる伝統的な行事です。

新年あけの日は占星術によって決められます。また、占星術によって、その年の縁起のよい時間、服装の色などが発表されます。

ミルク炊きこぼし儀式、食べはじめの儀式などを国民皆が同じ色の服装を着て、同じ方向を向いて、同じタイミングにします。時間に遅れるのが悪いとされています。また、お寺に参拝に行くのも習慣です。

お正月料理として、ミルクライスと伝統的なお菓子が有名です。伝統的なお菓子は日本のお節料理みたいに色々な意味を持っているそうです。ミルクライスはお正月の日に皆同じ時間に作りますが、お菓子はお正月の前に作っておきます。

お正月に親戚、知り合い、近所の家を訪問します。また、子どもは大人からお年玉をもらいます。

そして、お正月祭りやイベントなどもたくさん開かれて、皆楽しく過ごしています。

えてがみ
 (絵手紙)



よしむら
 吉村まみ子

しかい
「きんちょうしたはじめての司会」

おの
 小野アムパ (タイ)

私は、安島せんせいからサロンのつどいの司会をやってみない?といわれたとき、さいしょは、私に司会ができるかなーと、しんぱいでした。いえにかえって、しゅじんに司会のはなしをすると、「アムパにほんとに司会なんかできるの?」といわれて、いえで毎日れんしゅうするようにいわれました。しゅじんが、和田せんせいの司会のやくをやり、れんしゅうしました。さらに、私はトイレのなかで、でんしゃのなかで、おふろのなかでもれんしゅうしました。高野しちょうはじめ、らいひんのかたのなまえをまちがえないようにれんしゅうしました。

「とうきょう のうこうだいがく こくさいこうりゅうか かかりちょうの つのもり ゆきえさま」と、「とうきょう がいこくごだいがく かしわざき まさよせんせい」と、「ロータリークラブ」のはつおんが言いにくいので、司会するときにはつおんをきれいになりたいので、和田せんせいにたすけてもらい、それでなんかいもれんしゅうしました。

サロンのつどいのほんばんでは、和田せんせいにフォローしてもらいながら、えがおと、大きなこえでおちついて司会ができました。

サロンのつどいのりょうりを作るのに、2日前からメンバーがあつまってりょうりを作り、じゅんびしました。たいへんでしたが、おいしいりょうりを作って、みんなによるこんでもらえることが、とてもたのしいので、メンバーみんなでがんばりました。

私は、タイりょうりのグリーンカレーと、はるさめサラダ(ヤムウーセン)を作りました。グリーンカレーがおいしかったと言われので、うれしかったです。アトラクションのダンスは、メンバーがあつまってよくれんしゅうしましたが、私もメンバーの人たちもダンスがすきですので、みんなでれんしゅうするのがとてもたのしかったです。サロンのメンバーはみんなよいともだちです。

さいごに、はじめて司会をやらせていただきありがとうございました。さいしょはきんちょうしましたが、とてもたのしいそがしい1日でした。



左がアムパさん(タイ)

『(サロンの集い)料理班の感想』

蔡 欣怡 (台湾)

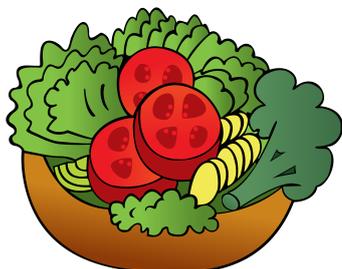
2013年に「サロンの集い」の料理班に参加し始めましたが、その時は先輩のお手伝いだけでした。翌年、同じ台湾出身の温さんと一緒に1品を用意しました。初めて台湾料理の担当者だったので、まだいろいろなことが分からなかった。先生と先輩たちにアドバイスをもらって、思うようにできました。

この経験で、「サロンの集い」のための前準備はとても大切なことがわかりました。レシピを考えたり、大人数の量の計算と、味のために試作したり、盛り付ける時に美しく見えるようにしたり、何回も確認する必要がありました。

「サロンの集い」当日に一生懸命お手伝いをしてくださった方々の様子を見て、凄く感動しました。そして、お集りの皆さんに楽しくお料理を食べてもらって、作る人にとっては何よりのご褒美でした。

今年で4回参加しましたが、毎年まるで初めてのよう不安感がありました。私も早く先輩たちのように一人で2品も用意したり、余裕に作業したりしたいと思いました。

「サロンの集い」の料理班に参加することは、私にとって単にお料理を作ることではありません。料理用語や、人との接し方などを勉強して、心も豊かになります。一緒にお料理を手伝ってくださった方がたどうもありがとうございました。皆さんの力と知恵を合わせて、今年も素敵なイベントになりました。



わたし くに
私のお国じまん ~29~

「韓国のお正月」

ナム ソラ かんこく
南 素羅 (韓国)

韓国のお正月は日本と違う旧暦で、毎年日にちが変わります。2018年のお正月は2月16日です。日にちが違うもののお正月なので、特別な食べ物もあります。お肉料理からナムル、チヂミ、菓物などを家族と一緒にお正月の前日まで用意します。今は美味しい食べ物に囲まれています。昔は待ちに待ったご馳走で町中には久しぶりの油のおいでいでした。正月に欠かせない食べ物はトックスープです。お餅のお汁で牛肉からだしを取って平たい楕円形のお餅を入れて作ります。トックスープを食べると一才年を取ると言われて、子どもたちは競って食べたりします。両親や祖父母に新年のあいさつもします。もちろんお年玉もあります。

でもやはり1月1日に年度が変わるのはほかの国と同じです。休日は1月1日のみになりますが新しい年を迎える行事が行われます。その一つがジェヤ(除夜)の鐘打ちです。鐘はソウルのジョンノ(鍾路)のボシンカク(普信閣)にありまして12月31日になるとボシンカクの鐘の音を聞くために人がいっぱい集まります。そして日にちが変わると同時に鐘が33回打たれます。

本来鐘打ちは仏教で除夕または大晦日に衆生が持っている百人の煩惱を取り除くために行われた行事で、今も各お寺では108回の鐘打ちをします。なぜボシンカクの鐘だけ33回なのでしょう。朝鮮時代に都城の四大門と四小門の開閉時間を知らせるため鐘打ちをしました。(1396年太祖6年から)夜の10時頃には28回を打って門を閉め、通行禁止します。28回には日月星辰二十八宿(天の赤道を28のエリアに分割したもの)の星に夜の安寧をお願いする意味が入っています。夜明けの4時には33回を打って門を開きます。33回は仏教の守護神である帝釋天が治める空の国、三十三天(天界)を象徴します。鐘を33回打って国の泰平、国民の無病長寿を祈願しました。ジェヤ(除夜)の33回の鐘打ちはそこから由来

したそうです。

2018年の新しい年を迎えました。私も心から鐘を33回打ってみなさんの平安を祈ります。



(デトロイトのオートショー)

とう こう 投◇稿

*編集部注: 昨年12月号掲載「除夜の鐘は33回」の最後3行の表記中「33回の除夜の鐘」は、「『3・1運動』で33人の知識人」とは関係ありません。

「ミャンマーの日本語学校支援」

金曜午後ボランティア 中野邦夫

「人生ほとんどがミシガン！」

ステファン ボン ウーダー (アメリカ)

私は人生のほとんどをミシガンに住みました。ミシガンには、自然のすべてがありますから、素敵だと思います。夏はすごく熱いですが、冬もすごくさむいですよ。五大湖がありますから、たくさん雪が降ります。キャンプと狩猟は人気があります。

日本に来る前、アン・アーバーに住みました。「木の町」といいます。そこは大学の都市ですから様々な面白い人がいるし、色々する事があります。ミシガン大学のフットボールチームは有名です。アン・アーバーにもドミノピザの本部があります。

ミシガン州にはデトロイトがあります。MotorCity (モーターシティ) と言ってるのだから、ミシガンの人は車が大好きです。でも、車の会社はフォードとGM(ジーエム)のみではない、トヨタ、日産もありますよ。毎年、1月にデトロイト“Auto Show”(オートショー)に世界の車会社がきます。とても人気があります。

2015年にマンダレーのYMCAで日本語ボランティアをしていたとき、市内の日本語学校を調べたところ、学習者が10人前後の小さいところから100人を超す学校まで、20数校ありました。合計すると学習者は約1000人、教師は約50人でしたが、日本人の教師はたった3人でした。つまり海外で日本語を学ぶ人は大勢いますが、教える人はほとんどが現地の人たちです。学校を訪問してお話しを伺うと、教師の皆さんはとても意欲的ですが、教授法を学習したことのない人や、日本に行ったことがない人もいて、発音やイントネーションだけでなく、日本についての知識や情報不足に悩みをお持ちでした。大都市マンダレーでさえそうなのだから地方都市はもっと条件が悪いだろうと思い、ミッチーナ、ピンウールイン、メッチーラ、タウンジーなどの学校を訪問したところ、やはり同じ悩みをお持ちでしたので、多くの学びたい人たちと、熱意をもって教える人たちに何か支援をしたいと考えるようになりました。

高齢の私は、ミャンマーに長く滞在して教えることは今後ますます難しくなりますが、短期滞在で地方の学校を訪問し、教師の方々をサポートしたり、

役に立つ教材を提供したりすることはできます。そう考^{かんが}えて暇^{ひま}があればBOOK-OFFで教材探^{さが}しをし、街^{まち}を歩^{ある}けば電車^{でんしゃ}や駅^{えき}のホームドア、自動改札^{じどうかいざつ}、バリアフリー歩道^{ほどう}、自動販売機^{じどうはんばいき}など、ミャンマーでは見^みかけない日常生活^{にちじょうせいかつ}の場面^{ばめん}や、春^{はる}の桜^{さくら}、冬^{ふゆ}の雪景色^{ゆきげしき}などのビデオをたくさん撮^とり溜^{ため}めました。

今年^{ことし}の3月^{がつ}にこれらを持って各地^{かくち}の学校^{がっこう}を訪^{ほうもん}問^{もん}したところ、教師^{きょうし}の方^{かた}々^{たら}からは教材^{きょうざい}をたいへん喜^{よろこ}んでもらえ、また学習者^{がくしゅうしや}の人^{ひと}たちはビデオの画面^{がめん}に目を輝^{かがや}かせてくれました。そして学習者^{がくしゅうしや}にとっては短^{みじか}い時間^{じかん}であっても、日本人^{にほんじん}である私^{わたし}が教壇^{きょうだん}で教^{おし}え、初^{はじ}めて直接対話^{ちよくせつたいわ}することは貴重^{きちょう}な経験^{けいけん}になったようです。このようなわずかな機^き会^{かい}でも、将来^{しやうらい}につながる良^よい経験^{けいけん}になってもらえればとても嬉^{うれ}しいことですので、これからも続^{つづ}けていきたいと思^{おも}っています。



わたし 私の☆つばやき

わたし わす の かい 「私の忘れられない飲み会」

グエン・スワン・ティン (ベトナム)

あ 明^あけましておめでとうございます。皆^{みな}さん、お正月^{しょうがつやす}休み^{やすみ}はいかがお過^{すご}ごしでしたか？

ねんまつねんし じま つか かいしゃ ともだち
年^{ねん}末^{まつ}年^{ねん}始^しの時期^{じき}、ご家^か族^{ぞく}・お勤^{つと}め^めの会^{かい}社^{しゃ}・お友^{とも}達^{だち}と
ぼうねんかい お いな
の忘^{ぼう}年^{ねん}会^{かい}が終^{しま}わるや否^{いな}や、また新^{しん}年^{ねん}会^{かい}の飲^{かい}み会^{かい}が待^まってますね。飲^のみ会^{かい}だらけで皆^{みな}さんお忙^{いそ}しいと思^{おも}いますが、ご体^{たい}調^{ちよう}を崩^{くず}されないうにね！丁^{ちよう}度^ど2018
ねんど いちばんめ
年^{ねん}度^どの一番^{いちばん}目^めのくろすろーどに掲^{けい}載^{さい}なので、飲^のみ会^{かい}のテ^はマにして話^わしたいと思^{おも}います。

わたしにほん かいしゃ にゆうしや ほんし はいぞく
私^{わたし}日本^{にほん}の会^{かい}社^{しゃ}に入^{にゆう}社^{しゃ}したころの話^{はなし}ですが、配^{はい}属^{ぞく}した部^ぶ署^{しょ}で半^{はん}期^き決^{けつ}算^{さん}がおわった時^{とき}に部^ぶ署^{しょ}内^{ない}の飲^のみ会^{かい}が開^あけられました。初^{はじ}めての部^ぶ署^{しょ}の皆^{みな}さんとの飲^のみ会^{かい}なのでずつと楽^{たの}しみにしていました。飲^のみ会^{かい}の時^{じかん}間^{かん}になったら部^ぶ長^{ちやう}の発^{はつ}表^{ひやう}が終^おわった後^{あと}、乾^{かん}杯^{ぱい}の儀^ぎ式^{しき}をして飲^のみ会^{かい}が始^{はじ}まります。ちよつと驚^{おどろ}いたのは飲^のみ会^{かい}なのに皆^{みな}さんはかなり静^{しず}かでお喋^{しゃべ}りしながら飲^のみたい人^{ひと}は飲^のんで、食^たべたい人^{ひと}は食^たべてという雰^{ふん}围^い気^きでした。飲^のみ会^{かい}中^{ちゆう}の話^{はなし}の話題^{わだい}はお仕^し事^{ごと}関^{かん}係^{けい}の話^{はなし}が殆^{ほとん}どでした。自^じ分^{ぶん}が新^{しん}入^{にゆう}社^{しゃ}員^{いん}なので上^{じやう}司^し・先^{せん}輩^{ぱい}の話^{はなし}を聞^きくだけで時^{とき}々^{とき}飲^のんだり食^たべたりしました。飲^のみ会^{かい}は時^{じかん}間^{かん}が結^{けつ}構^{こう}経^{てい}ちましたが、おわりの兆^{きざ}しがまだ見^みえなく、終^{しゆう}電^{でん}の時^{じかん}間^{かん}もう近^{ちか}づいたので、どうしようかなあ〜どうすれば先^{さき}に帰^{かえ}れるかなあ色^{いろ}々^{いろ}頭^{あたま}中^{ちゆう}で考^{かんが}え始^{はじ}めました。部^ぶ署^{しょ}内^{ない}の皆^{みな}さんと初^{はじ}めての飲^のみ会^{かい}だし、皆^{みな}さん楽^{たの}しんで飲^のんでるのに途^{とちゆう}中^{ちゆう}に「お先に...」つて言^いえませなし、もし終^{しゆう}電^{でん}に間^まに合^あわなかつたら贅^{ぜい}沢^{たく}なタクシ^しーを呼^よべないし、じゃ、20キロ位^{くら}歩^{ある}いて帰^{かえ}るなら厳^{きび}しいな〜思^{おも}いました。例^{たと}えば今^{いま}、この絶^{ぜつ}妙^{みやう}なタイミ^{だい}ングに誰^{だれ}か「ね！終^{しゆう}電^{でん}は何時^{なんじ}？」つて声^{こゑ}かけてくれると「渡^{わた}りに船^{ふね}」だが、終^{しゆう}電^{でん}の時^{じかん}間^{かん}が過^すぎても誰^{だれ}も声^{こゑ}かけてきませんでした。夜^{よる}12時^{じちか}近く^のやつと飲^のみ会^{かい}が終^おわり、帰^{かえ}り道^{みち}を設定^{せつてい}したグーグルマ^みップを見^みながら歩^{ある}き始^{はじ}めました。帰^{かえ}る途^{とちゆう}中^{ちゆう}で後^{あと}でがちやんと何^{なに}か倒^{たお}れた音^{おと}がして、立^たち止^とまって振^{かえ}り返^{かえ}ったら自^じ転^{てん}車^{ちゆう}の飲^の酒^{しゆう}運^{うん}転^{てん}の人^{ひと}でした。でんしやない えきない さげ よ つぎ ひと
電車^{でんしゃ}内^{ない}、駅^{えき}内^{ない}で酒^{しゆう}で酔^よい潰^{つぶ}れる人^{ひと}をよく見^みかけましたが、この光^{こう}景^{けい}が初^{はじ}めてででした。歩^{ある}いて帰^{かえ}ることでにほん がいろとう よ あ がた ひか
日本^{にほん}の街^{まち}路^ろ灯^{とう}が夜^よ明^あけ方^{かた}までずつと光^{ひか}ってるのを知^しることができました。これ^{これ}は私^{わたし}の忘^{わす}れられな^{ない}飲^のみ会^{かい}でした。



みな かくしゅうしやしょうかい
皆さんよろしく◇学習者紹介

アヌルダ エディリシンハさん(スリランカ)



ゆうき けつだん
「勇気のいる決断でした」

スリランカの南部カルタラから 2017年9月来日しました。奥様が4月から東京外国語大学の修士課程に留学したので、お子さんと奥様のご両親と一緒に住んでいましたが、お子さんも生後18か月になり、思い切って家族3人で暮らすために、府中にやってきました。

13年間車輸入会社の人事部で働き、エグゼクティブ(重役)になっていたの、退職し日本に来るのは、とても勇気のいる決断でした。

日本語は、「かわいい」という言葉が気に入っています。それは、お嬢さんのまつげがすごく長いので、日本のかたに「かわいい」と何度も言われ、すっかりその「かわいい」という言葉が好きになりました。

日本の食べ物は天丼が好きで、リンゴも大好きです。スリランカのメロンとスターフルーツがとてもおいしいとのこと。

将来は日本のバスルームのメーカーの代理店になって、スリランカでお仕事をしたいという夢もっています。(堤林)



こう えん かい ほう こく
講演会報告

おお まな こうえんかい
「多くのことを学んだサロン講演会」

げつようごご なかの
月曜午後ボランティア 仲野さゆり

12月9日、37名(ボランティア29名・学習者1名・市民7名)の参加を得て、『日本語教育と国際交流』～日本語を学ぶ外国人の気持ちを体験してみよう』という題名で、東京外国語大学名誉教授・小林幸江先生と、オーストリアからの留学生クリスティーナさんによる講演会が行われました。

■プログラム第1部：「日本語を学ぶ外国人の気持ちを体験しよう」

日本語を教えているボランティアさんたちが学習者の立場となり、先生役のクリスティーナさんが、ドイツ語のみで「あいさつ」や「自己紹介」を教える「直接教授法」を体験しました。

私は大学でドイツ語をかじったことがあり、少し知っていましたが、言っている意味がわからないと思考が固まりました。学習者さんたちも、少なからず不安や緊張を抱えながら日本語と向き合っているのだろうと、身をもって感じました。クリスティーナさんは、ジェスチャー、イラスト、表情(笑顔)などで理解を助ける工夫をされていました。このように私も、学習者の立場を考えたサポートができたらと思いました。

ウィーン市ヘルナルス区(府中市の友好都市)の紹介もしていただきました。クリスマスの習慣は、日本人がイメージする「サンタクロースが子どもたちにプレゼントを届ける欧米のクリスマス」とは異なり、聖ニコラスとクランプス(西洋版なまはげ?)が現れるそうです。そこから、「外国人を十把一絡げにしないように」とお話しがあり、同じヨーロッパやアジア、大陸の国々であっても習慣や文化は多様であることを理解し、尊重することも国際交流をする上で大切だと教えていただきました。

■プログラム2部：「日本語教育と国際交流」

日本語支援に係わるために、留意すべきことを学びました。相手への配慮や気持ちを察する日本語コミュニケーションは、外国人の立場からすると難しいため、自分の考えを言語化し、明確かつ論理的に伝達する教育や、「やさしい日本語」を使い外国人のニーズに対応する支援が大切だと教えていただきました。

最後に、日本語指導体験についてグループワークをしました。私たちのグループでは、

*「手が寒い」はどうして変ですか。

について話しました。「寒くて手が冷たい」、「足が冷たい」など【体の部位】について話すときは「寒い」よりも「冷たい」を使ったほうが自然だという意見が出ました。

*「教室で試験があります」はいいのに、「教室で椅子があります」はどうして変ですか。

こちらはぜひ考えてみてください。

まとめとして、小林先生に『日本語指導は国際交流の最前線』、『互いに学び合う』気持ちが国際交流の要！」と結んでいただきました。

この講演会に参加して、私は学習者さんからも、ボランティアさんからも多くのことを学び、また自分からも何かを提供できる、そういう場を作りたいと思いました。

げつようごご ボランティア ありまけいこ
月曜午後ボランティア 有馬圭子

主人の留学に帯同し渡米したとき私は全く英語が喋れなく4ヶ月の長男を連れてだったので本当に不安でいっぱいでした。そんな中、ボランティアで英語を毎週教えてくださったり、毎週他国から来ている人たちをスクールバスで迎えに来てくださって教会で交流会と色々なクラスを開いてくださったり、ショッピングモールやスーパー、美術館などに連れて行ってくださったりする色々な方のサポートで本当に楽しい日々を過ごすことができました。

今日本にも多くの外国人の方がいらして下さっています。私がアメリカでしていただいた温かいサポートのように、みなさんが、少しでも日本での生活が、日本への思いが「楽しい」でいっぱいになるようお手伝いのできたらいいな、と本当に思います。

まだ、仕事をしながらの参加なので、なかなか全力ではいけないのですが、できることを少しずつ、少しずつみなさんと一緒に活動していきたいと思っています。

げつようごご ボランティア とりいあきひさ
月曜午後ボランティア 鳥居明久

はじめまして、と書き出しましたが、「日本語教授法研修」を受講するとともに府中国際交流サロンに参加するようになって、はや8ヶ月ほどが経ちました。府中国際交流サロンが身近になり、自分もその一員だと思えるようになってきたところです。

私は、高校で国語の教師をした後、中高一貫校の図書館で司書教諭をしていました。外国語が得意というわけではありませんが、学生の頃から、ことば（言語）というものに関心をもっていました。ですから、退職したら、ことばに関係した何かができないものかと思っていたところ、府中市の広報で「日本語学習会」を知り、早速に「日本語教授法研修」を受けたのです。まあ、困ったもので、教師根性が抜けていないとも言えますが、改めて日本語に出会うとともに、「日本語学習会」の生徒さんやボランティアの皆さんとの「交流」ができることを喜んでいきます。どうぞよろしく願いいたします。

「教授法研修Ⅱ 開講のお知らせ」

柏崎雅世先生による「教授法研修Ⅱ」(全8回)の講座が、2月1日から3月22日までの毎週木曜日午前10時より開催されます。対象は、昨年の「教授法研修初級Ⅰ」の講座を終了された方々です。参加費用は無料、教材は「みんなの日本語初級Ⅱ」(要各自購入。府中・啓文堂にて2500円でお求めになれます。)を使用します。尚、ほかのボランティアの方も受講できます。詳細は事務局か研修部会にお問い合わせください。(編集部)

「市民協働まつりに初参加！」

金曜午後部会 安島文江

11月25日(土)、26日(日)に開催された市民協働まつりに府中国際交流サロンが初めて参加しました。会場はプラッツ5F、6Fで約100の団体が活動内容を紹介したり、体験コーナーを設けたり、とたいへん楽しいイベントでした。

サロンは、三択のクイズを出し答えてもらいスタンプを押す形式で、皆さんに楽しんでいただけたと思います。

担当したのは学習部会で、各部会からボランティア数名が参加し、部会がお互いに協力してより楽しく交流ができる機会にもなりました。また、いろいろなボランティア団体の活動内容も知ることができ、今後のサロンの活動の参考になったと思います。

年末年始はいかがでしたか。私は子どものころから毎年、親戚みんなで集まり、そろって遊びます。カルタ取りや百人一首、ボードゲームには年齢を越えて楽しめる言葉のコミュニケーションと学びがあふれています。中でも、知らない単語をあたかも知っているかのように全員が説明する「広辞苑ゲーム」は、日本語力を鍛えてくれます。

今年も「くろすろど」は、豊富な話題で読みやすい紙面を目指します。そして、少しの遊び心をも忘れずお届けしたいと思います。みなさんのアイデアもお待ちしています。(岩城)



【編集】会報部会/和田、堤林、高柳、篠塚、坂倉、岩城、増田

【事務局】電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>